

## 7.2.5 研究活動と研究環境（理工学部・理工学研究科 共通）

### 7.2.5.1 研究環境

＜2003 年度に設定した目標＞

1. 教員及び学生（卒研究生）の研究上の成果を学会、研究集会等の場で発表し、かつ、レフェリー付学術雑誌に掲載する。
2. 研究成果の発表・掲載に必要な経費を確保する。
3. 研究を遂行する上で必要な文献類を確保する。また、インターネットによる文献へのアクセスなど利便性の向上をはかる。
4. キリスト教主義教育の立場から科学技術に関する倫理教育を推進していく。

#### 【評価項目 9-1-3】 研究上の成果の公表、発信、受信等

（選択要素）研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

（選択要素）国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

#### （現状の説明）

教員は、年間225,000円までの学会出張費が認められているが、その支出状況は教員によってかなりばらつきがある。これは海外出張にも支出でき、毎年多数の教員が利用している。ただし、複数回海外の学会で発表する精力的な教員にとっては、十分な補助となっていない。出張手続きについては、申請書類とともに学会期間や発表を確認できるプログラムなどの提出を義務付けおり、適正に支給使用されている。学生に対しては、学会等で発表する者を対象に企業や同窓会、在学生の保証人有志からなる「産学連絡研究会」から交通費の補助（25,000円を上限）を行っている。この補助は年間1回しか受けられないが、利用者は年々増加しており、資金不足の状態となっている。研究費から学生に旅費等を支給する場合は、教員の責任で目的を明示する文書を提出し公正な使用を期している。

最新の研究雑誌へのアクセスは、研究にとって必須であり、理工学部として多額の図書費補助をしているが、値上がり等のため購読継続ができない雑誌が増加している。情報へのアクセスの便宜を図るため、図書館の夜間利用やサイファインド、サイエンスダイレクトなどのインターネットの活用が進められているが、アクセスできる雑誌数に制限がありまだ不十分である。研究プロジェクトの成果発表に対しては、成果発表会や成果報告書作成のための予算を組んで、情報発信を支援している。

#### （点検・評価の結果）

学会出張費は公正に支給されており、特に支給手続きに問題はない。支給状況は教員によってばらつきが大きく、毎年旅費が残る教員がいる一方、出張回数が多い教員は旅費が不足している。支給方法に検討の余地がある。学生支援については、資金不足が深刻化している。

雑誌購入費用は、今後ますます不足していくと予測され、その手当てを検討していくこ

とが必要である。雑誌の利用状況調査を行い、毎年購読雑誌の見直しをしているが、いくつかの重要な雑誌が購読中止となっている。サイエンスダイレクトなどインターネットを利用した情報へのアクセス環境は徐々に整備されて来ており、利便性は向上しているが、十分とは言えない。

#### (改善の具体的方策)

学会出張費や雑誌購読料の問題は、予算措置をとるものであり、解決がむずかしい。教員間の出張費の配分方法、学会出張以外の用途など使い良さの改善、繰越額の見直しなど検討していく。雑誌購読については、購読雑誌の削減には限界があり、研究費からの支出も含め図書費増額のための措置を検討していくことが必要である。

#### 【評価項目 9-1-4】 倫理面からの研究条件の整備

- (選択要素) 倫理面から実験・研究の自制が求められている活動・行為に対する学内の規制システムの適切性
- (選択要素) 医療や動物実験のあり方を倫理面から担保することを目的とする学内的な審議機関の開設・運営状況の適切性

#### (現状の説明)

社会で活躍する科学研究者にとって倫理面の問題は避けて通れない問題となってきている。こうした状況に対応するために、カリキュラム上「科学倫理」と「生命倫理」を開講して、科学者の倫理について講義している。これ以外にも廃棄物や組換えDNA実験の説明会を随時開催している。さらに、キリスト教主義に基づく倫理教育の一環として、チャペルアワーでは様々な角度から社会と科学との関わりについての講話がなされている。

組換えDNA実験については、学外委員、専門専任教員、専門外の専任教員、宗教主事、事務職員から構成される「関西学院大学組換えDNA実験安全委員会」が学長のもとに設置されて、実験室の設置や実験の承認についての審議が行われている。また、動物実験については、専門専任教員、専門外の専任教員、事務職員から構成される「関西学院大学動物実験委員会」が設置されて、実験動物の安全管理、実験の適正な実施について審議される。動物実験を実施する研究室は、毎年、実験実施報告書を年度初めに提出し、実験における飼育数や、設備状況、飼育方法等について報告をさせている。これをもとに動物実験委員会が、動物実験が適正かつ円滑に実施されるよう、現有の動物実験の場所や飼育施設、その管理運営に必要な組織体制を確認している。

#### (点検・評価の結果および改善の具体的方策)

倫理教育については、キリスト教主義という本学の特色を生かして、積極的に取り組んでいる。組換えDNA実験についても、実験を行う実験室の設備や研究内容について文部科学省の指針に基づいて厳正に審議し機関承認や文部科学省への報告を行っており特に問題はない。また、動物実験についても同様に厳正な審査、報告を行っており問題はない。

今後とも倫理教育の充実に努める。